

女性技術者の紹介

コンサルタントとしての これまでとこれから

株式会社復建技術コンサルタント／水工技術部／技術二課

井上加奈子



1. はじめに

2022年4月、新型コロナウイルスが依然として猛威を振るう中、私は株式会社復建技術コンサルタントに中途入社しました。当時はマスク着用が必須、毎日顔を合わせる同部署の方々とさえしばらくは顔の一部しか見ることができず、後になって「この方はこういう顔だったんだ」ということも少なくありませんでした。

私が所属する水工技術部技術二課は、2022年度から本格始動した「みやぎ型管理運営方式」の案件対応を主な目的とした課です。機械・電気・土木担当で構成し、数年前に設立されました。私は2人目の機械担当者として入社しましたが、もう1名の担当者は大阪支店に在籍、仙台本社の機械担当は私のみという状況でした。私はというと、大学は文系学部の卒業。前職でCAD操作や上下水道に関わる業務に従事していたものの、コンサルタント業界は未経験、本格的な理系への転向（理転したと言えるのか、確信は持てず・・・）は現職に就いてからと、前途多難な船出となりました。

2. 決意の技術士第一次試験合格

入社後は右も左も分からず、とにかく目の前の業務をこなすことで精一杯でしたが、入社前から決意していたことがありました。それは「技術士第一次試験合格」です。合格するのが当然、という社内の風潮に加え、当時の私は何の資格も有していなかったため、未熟ながらも上下水道部門の専門家であることを証明し、お客様の信頼獲得に繋げたい、という強い抱いていました。

初めて試験のテキストを開いたときは内容が全く理解できず「こんなに分からないのに合格できるのだろうか」と不安に思ったことを今でも覚えています。すっかりお手上げ状態でした。しかし、文系学部出身ながら一発合格を果たした社内の方の話を聞く機会があり、その話に勇気づけられました。また一緒に合格を目指す同僚の姿も励みとなり、試験への意欲を高めることができました。

入社から数か月が経ち、季節は初夏。夏の楽しみを見つけた私は、ここからしばらくの間、試験勉強のペースが落ちてしまいました。

3. 勉強は失速、水の夏

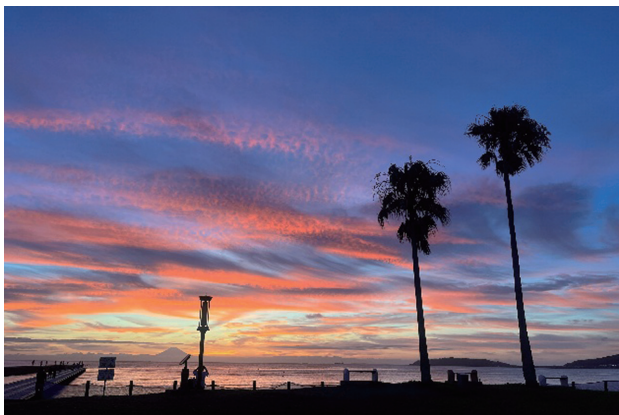
ここで、水つながりで私の趣味を紹介すると、水泳が好きで週に3～4回程ジムのプールで泳いでいます。水泳チームに所属しており大会での自己ベスト更新を目標に練習しています。その延長で夏は海での遠泳にも励んでいます。転職を機に仙台市に越してきたのですが、海が自宅から車で40分程度と気楽に行ける距離にあり、チームメイトとともに毎週末のように入っています。日差しが降り注ぐ中、縦横無尽に泳げる海の解放感は格別であり、私にとって夏＝海となっています。

さらに、遠泳の大会に参加するため、チームメイトとともに各地へ遠征することも楽しみの1つです。遠泳のレースは海に4か所浮かべられたブイの周りを周回するコースが定番なのですが、昨年度から参加している青森市内の大会は浅虫温泉駅の向いにそびえ立つ湯ノ島の外側を周回するという変わったコースが設定されています。海の中から遠くに下北半島や青森市内を望むことができ、泳ぎながら観光気分を味わうことができました。

すっかり海の虜になった私。技術士第一次試験を控えていた入社1年目の夏も勉強は二の次で、本腰を入れて再開したのが9月以降となってしまいました。



写真－1 レース会場その1 青森市 湯ノ島



写真－２ レース会場その２ 館山市 北条海岸

4. いよいよ勉強の秋

夏も終わり、気温が下がって海のシーズンが終わると勉強の秋ということで気持ちを切り替え、ようやく勉強を再開しました。技術士第一次試験はやはり手強く、数か月間、時間を見つけては家に籠ってヒーヒー言いながらひたすら勉強に励む日々を過ごしました。

結果としては、1年目は基礎科目と適正科目で合格ラインに達することができず、翌年に再挑戦してようやく合格を果たしました。入社2年目以降も毎年秋に何らかの試験を受験しており、今年度は下水道技術検定2種を受験しました。この原稿が冊子として発行されている頃には合否が判明していますが、果たして結果は・・・。

これまでの社会人人生の中で、日々の業務をこなしながら資格取得へ向けた勉強をするという経験がありませんでした。そのため、いかに両者を両立させることが大変であるかを実感したとともに、蓄積された知識が業務に生かされる喜びや、ちょっとした自信になることを感じました。

ただ、11月ともなると気温がぐっと下がり、寒さが厳しくなります。1年目の技術士第一次試験の勉強では節約も兼ね、自室で現地調査用のダウンコートを着込んで勉強し、寒さ対策が大変だったことも思い出の1つです。

5. これまでの4年間を振り返って思うこと

私たちコンサルタントの生業は、幅広い知見や技術を駆使し、お客様が抱える課題や問題の解決のために提案や助言をすることです。扱う対象が情報や思考といった形がないものであるがゆえに、業務の困難さを感じることも多々ありました。また上下水道に係る業務は非常に幅広く、時には模索しながら亀の歩みで歩を進めることもあり、決して平たんな道のりではありませんでした。

一方で、こなせる業務や知識が増え、自分自身の成長を実感するたびに大きな喜びを感じています。知識や経験不足のため専門性の高い企業様や、時にはお客様から教えを乞う場面もありましたが、誠意をもってご指導い

ただいた時は感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。ここまで歩んでくることができたのは社内外問わず、周囲の方々の助けがあったからこそだと感じています。改めて感謝申し上げます。

6. コンサルタントとしてありたい姿

今後、以下の3つを大切にしながら、コンサルタントとしてさらに精進していきたいです。

＜①自己研鑽をたゆまなく継続し、知見と技術の構築に努める＞

業務に関する知識の蓄積はもちろん、技術士第二試験に合格し、技術士の資格を取得することが一つの目標です。業務経験不足のため受験資格を満たしていませんが、将来を見据えコツコツと準備を進めていきたいです。資格取得はゴールではなく、業務の質やお客様への提案内容を向上させるための手段であり、信頼獲得の手段であり、自己成長の証でもあると思います。

＜②恩を忘れず、人間性を大切にする＞

コンサルタントは目に見えないものを扱うがゆえに人間性が重要だと思います。多くの方々に助けていただいたことへの感謝を忘れず、誠意をもって業務に従事することで恩返しをしていきたいです。また、人間性を大切にすることは信頼関係を構築する上で欠かせない要素であり、私たちコンサルタントの基盤であると考えています。

＜③お客様の課題解決に寄り添う姿勢を持つ＞

弊社は「地域のホームドクター」を使命としています。なくてはならない存在となるために、お客様の要望に耳を傾け真摯に向き合い、適格に判断して意見を主張できる技術者でありたいです。その上で「さすが復建さん」と頼りにしていただける存在になりたいです。



写真－３ 技術士全国大会への参加

7. おわりに

今回、この本原稿を執筆することで、これまでの4年間を振り返り、今後の自分のあり方について立ち止まって考える良い機会となりました。弊社の社是にもある通り「技術・人格・社会貢献」を忘れず、そして本当のお客様は利用者であることも忘れず、これからも上下水道事業の一助となれるよう努めていきたいと思っています。